

キルギス共和国  
青年海外協力隊員要請背景調査  
報告書

平成10年12月

JICA LIBRARY



J1151199(5)

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

JICA  
941  
36  
JVI  
LIBRARY

青派 3
JR
98-005







## 報告書目次

1	調査団派遣の背景と目的	
1-1	調査団派遣の経緯と目的	1
1-2	調査内容	1
1-3	調査団の構成	1
1-4	調査日程	2
1-5	調査団面談者リスト	3
2	要請背景調査結果	
2-1	調査要約	6
2-2	調査結果要約一覧表	7
2-3	調査結果要約一覧表（露語）	9
2-4	受入希望調査表	15
3	協力隊員派遣計画	
3-1	協力隊活動のニーズ	22
3-2	重点分野	22
3-3	その他	23
3-4	事業展開	24
4	調査概要	
4-1	協議内容	25
4-2	他国援助期間の動向	34
4-3	事務所関連	35
4-4	生活環境	36



1151199 (5)

# 1 調査団の背景と目的

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

キルギス共和国は、1918年からロシア、旧ソ連の統制下であったが、1990年に主権を宣言し、現国名に改称した。92年にCISに加盟し、民主化と市場経済の導入に積極的な取り組みを見せている。また、対外的には西側やアジア諸国との関係強化を図っている。しかし、新たな経済・社会制度の導入に伴う混乱等により農業及び工業の生産量に大きな影響を及ぼしている。こうした状況にあつて、同国の経済・社会発展のための人材育成に貢献するものとして青年海外協力隊員（以下「協力隊」）の要請があり、97年12月に新規派遣団事前調査団が派遣され先方政府に対し、協力隊事業の仕組を説明し、交換公文の内容について説明を行なつた。

その後、交換公文が98年7月15日にイマナリエフ外務大臣と在カザフスタン三橋大使との間で締結された。各要請内容の詳細を確認し、調整員事務所開設のための情報を収集するために、本調査団が派遣された。

## 1-2 調査内容

- (1)受入機関及び大使館と今後の業務計画につき協議する。
  - ・受入窓口である国家外国投資経済発展委員会(GOSKOMINVEST)と今後の派遣計画につき協議する。
  - ・各省庁と今後要請の可能性のある職種につき協議する。
- (2)各要請につき、要請背景調査を行ない、募集に必要な情報収集を行なう。
  - ・配属先業務内容、活動内容、職場環境、先方負担事項につき調査する。
- (3)協力隊活動開始に必要な情報収集を行なう。
  - ・他国援助機関から協力活動の現状、問題点を聴取する。
  - ・調整員事務所開設に必要な不動産、安全管理情報を得る。
  - ・現地での語学訓練先、講師の確保、講師招へいの可能性を探る。

## 1-3 調査団の構成

団長／総括	青年海外協力隊事務局	派遣第三課長	山崎 昇
団員／派遣計画	青年海外協力隊事務局	派遣第三課職員	小田中 恵
団員／通訳	(財)日本国際協力センター	研修管理部	小林 淳子

1-4 調査日程

	月 日 (曜)	日 程	宿泊地
1	12月6日 (日)	東京→フランクフルト (LH711) 10:40 14:50	フランクフルト
2	12月7日 (月)	フランクフルト→アルマティ (LH3346) 10:15 21:55	アルマティ
3	12月8日 (火)	9:30 日本大使館との協議 10:30 アルマティ→ビシュケク (陸路) 16:00 日本センターとの打ち合わせ	ビシュケク
4	12月9日 (水)	9:00 国家外国投資経済発展委員会との調査及び派遣計画協議 11:00 保健省表敬 12:00 キルギス国立医学アカデミー/活動現場踏査 14:00 医療学校/要請可能性調査 16:00 教育・科学・文化省表敬	ビシュケク
5	12月10日 (木)	9:00 キルギス国立建設・運輸・建築大学/活動現場踏査 11:30 ビシュケク人文学大学/活動現場踏査 15:00 キルギス国立体育学院/活動現場踏査 17:30 教育・科学・文化省副大臣への報告	ビシュケク
6	12月11日 (金)	9:00 労働社会保障省表敬 11:00 メリム慈善基金/要請可能性調査 15:00 盲人・聾啞者協会/要請可能性調査	ビシュケク
7	12月12日 (土)	生活環境等状況調査	ビシュケク
8	12月13日 (日)	資料調査	ビシュケク
9	12月14日 (月)	9:00 社会基金/要請可能性調査 11:00 米国ピースコーとの意見交換 13:00 キルギス国立体育学院施設視察 16:00 教育大学/要請可能性調査	ビシュケク
10	12月15日 (火)	AM 調査結果取りまとめ 16:00 国家外国投資経済発展委員会への調査結果報告及び協議	ビシュケク
11	12月16日 (水)	AM ビシュケク→アルマティ (陸路) 15:00 大使館報告 医療・環境等情報収集	アルマティ
12	12月17日 (木)	アルマティ→フランクフルト (LH3325) 5:00 7:10 フランクフルト→ (NH210) 17:40	機中
13	12月18日 (金)	東京着 12:45	



## 1-5 協議先及び面談者リスト

在カザフスタン日本大使館

渡邊 夕子 三等理事官

日本センター

滋賀 忠雄 所長

萩原 幸子 日本語講座

国家外国投資経済発展委員会

Mr.Urkaly Isacv 委員長

Mr.Uran T.Abdynasyrov 第一副委員長

Ms.Aynura Kupuyeva 外国支援計画部 部長

Mr.Ekmat Baibakov 経済顧問

Mr.Sanjar Mokanbetov 推進専門家

Ms.Rahat Omorova 推進専門家

Ms.Rahat Abdildaeva 推進専門家

保健省

Mr.Naken K. Kasiev 大臣

Mr.Dimitrov Boris 対外関係部 部長

Mr.Kaziev Akmatgan 教育・科学・人材資源局管理部 部長

教育・科学・文化省

Mr.Valery L.Kim 大臣

Mr.T.D.J.Ormushev 対外部 部長

Mr.T.T.Abylsasymov 中高等専門教育局専門家

労働社会保障省

Mr.Rysaliyev Imankadyr Zarlykovich 大臣

Mr.Dilshat Khalimor 対外関係部 部長

Ms.Aziza Okeyera 対外関係部 次長

国立キルギス医学アカデミー

Mr.Iskender K. Akylbekov 学長

Mr.O.J.Uzakov 副学長

Mr.Makenjan S.Musuraliev 産婦人科医部 部長

Mr.A.K.Sharshenov 学科主任

Ms.G.A.Kachkyntaeva 市立新生児センター 医長

医療学校

Mr.Damir Isabekoveech Djanchirov 共和国標準医学 校長  
Mr.Roza Chodobaeva 副校長 養訓育業務担当  
Mr.Chinara Nogoybaeva 部長  
Mr.Dilyara Sagynbaeva 産婦人科系学科 学科長

キルギス国立建設・運輸・建築大学

Mr.Jumabek T.Tentiev 学長  
Mr.Boronbaev Erkin Kaparovich 第一副学長  
Mr.Sydykbekov Sabyrbek Tugolbaevich 国際部 部長  
Mr.Arabidin Kabyldaevich Kalandarov 国際部 次長  
Mr.Ilimidin Abdurasulov 環境工学部 学部長  
Mr.Elena Mihaylovna Rojima 生態・生活機能安全学科 主任

ビシュケク人文学大学

Mr.Bekboev Hskarbek 副学長  
Mr.Mashrapov Talasbek 東洋科学国際関係学部 学部長  
Mr.Musava Indira 国際関係部 部長  
Mr.Vladimir Ganobich Lyu 東洋言語文学科 主任  
三井 勝雄 日本語教師  
松尾 太郎 日本語教師  
Ms.Kanyshay Konkobaeva 日本語教師  
Ms.Timur Chommurunov 日本語教師  
Mr.Nuebek Saparov 日本語教師

キルギス国立体育学院

Mr.A.M.Naraliev 第一副学長  
Mr.T.T.Imanaliev 第二副学長  
Ms.Gulmiza A.Seytalieva 哲学・人文学部 助教授 合気道連盟会長

メリム慈善基金

Ms.Mayram A.Abdurazakova-Yusupova 財政副委員長  
Ms.Tentieva Svetlana 副委員長  
Ms.Djamirya Kochkonbekova Kerimkurova 児童センター建設プロジェクト責任者

盲人・聾啞者キルギス協会

Mr.Kalyk B.Mambetakunov 会長  
Mr.Vladimir T. Sydygaliev 副会長  
Mr.Igori Viktorovich Kujeli (有) クロン社工場長

社会基金

Ms.Rjza M. Uchkempirova 委員長

天然資源完全利用技術研究所

Mr.Abdurasulov Ilimidin 講師

教育大学

Mr.Amangeldy A.Bekbalayeb 学長

Mr.Avazbek Atakhanov 教育大学付属東洋言語文化学院 学院長

伊藤 広宣 教育大学付属東洋言語文化学院 アドバイザー

米国ビースコー

Mr.Duane Beard キルギス事務所 所長

## 2 要請背景調査結果

### 2-1 調査要約

1. 当調査団は、平成10年12月8日から15日まで8日間に亘りキルギス共和国に滞在し、国家外国投資経済発展委員会(GOSKOMINVEST)作成の協議日程に基づいて4省庁、12関係機関を訪問した。数多くの関係者と協議を通じて、先方側の協力隊に対する関心の高さ、隊員派遣の早期実現への期待が強く感じられた。
2. 協議した各省庁及び関係機関において、調査団から協力隊活動の概要、要請手続、隊員派遣までのプロセス、日本側の負担すべきこと及び先方政府の負担すべきこと等について説明を行なった。既に要請書を提出している機関については、その背景、妥当性についてヒアリングしつつ要請内容を確認した。また、隊員要請を検討中の機関に対しては、具体的要請職種や配属先の現状等を確認し、必要な手続きの説明を行なった。
3. 今回の調査結果は別添一覧表のとおりで、12件の要請があり、その内7件を平成11年度春募集の対象とすることが妥当であると判断し、2件を継続協議案件、3件を要請取下とした。更に、今後要請が見込まれる要請は19件あった。
4. 調査団滞在中には地方調査を実施できなかったが、関係機関との協議を通じて隊員活動は地方展開が求められていることを確認した。地方展開については、調整員の派遣後に現地での詳細な調査を行なった上で隊員派遣を進めることが妥当である。従って、本調査結果は、初代隊員として先ず首都ビシュケク市内に配属することを主眼に要請を絞り込んだものである。
5. 要請一覧表の中で、ブルーシートがGOSKOMINVESTに接していない案件について、同省を通じて関係機関への督促を依頼した。
6. 調査団は、関係省庁のみならず、在キ他国ボランティア機関（ピースコー）も訪問し、活動状況及び実施体制、ボランティアの処遇等について意見交換を行なった。また、隊員の海外手当設定に資するため、市内における各種の物価調査を実施するとともに、治安対策等の情報収集を行った。
7. 最後に、訪問先関係省庁の行き届いた対応は勿論のこと、特にGOSKOMINVESTは調査団のほぼ全日程に推進専門家（日本担当者）をアテンド役として配置し、極めてタイトな日程にも関わらず、予定どおり調査団所期の目的が達成できるよう多大な配慮をいただいた。GOSKOMINVESTの親身な対応ぶりに特筆し、深く感謝申し上げたい。

2-2 調査結果要約一覧表

	要 請 機 関	職 種	調査結果内訳		備 考
1	キルギス国立医学アカデミー	産婦人科医養成講師	×	要請取下	専門家レベルの内容
2	キルギス国立医学アカデミー	産婦人科実習助手	△	継続協議	要内部協議
3	キルギス国立医学学校	助産婦	△	継続協議	要内部協議
4	キルギス国立建設・運輸・建築大学	人口・環境問題	○	公式化	
5	ビシュケク人文学大学	日本語教師	○	公式化	
6	キルギス国立体育学院	卓球	○	公式化	
7	キルギス国立体育学院	空手	×	要請取下	KOV配属済
8	キルギス国立体育学院	フェンシング	×	要請取下	機材調達不可
9	キルギス国立体育学院	合気道	○	公式化	ブルーシート未着
10	キルギス国立体育学院	バレーボール	○	公式化	ブルーシート未着
11	メリム慈善基金	システムエンジニア	○	公式化	ブルーシート未着
12	メリム慈善基金	生花	○	公式化	ブルーシート未着
13	メリム慈善基金	青少年活動	※		今後見込まれる要請
14	メリム慈善基金	ソーシャルワーカー	※		今後見込まれる要請
15	メリム慈善基金	母子保健	※		今後見込まれる要請
16	盲人・聾啞者協会	幼稚園教諭	※		今後見込まれる要請
17	盲人・聾啞者協会	看護婦	※		今後見込まれる要請
18	盲人・聾啞者協会	農・畜産物加工	※		今後見込まれる要請
19	盲人・聾啞者協会	システムエンジニア	※		今後見込まれる要請

	要 請 機 関	職 種	調 査 結 果 内 訳	備 考
20	キルギス国立医学アカデミー	理学療法士	※	今後見込まれる要請
21	キルギス国立医学アカデミー	作業療法士	※	今後見込まれる要請
22	キルギス国立医学アカデミー	臨床検査技師	※	今後見込まれる要請
23	キルギス国立医学アカデミー	心電図検査技師	※	今後見込まれる要請
24	キルギス国立建設・運輸・建築大学	都市工学	※	今後見込まれる要請
25	キルギス国立体育大学	柔道	※	今後見込まれる要請
26	キルギス国立教育大学付属 東洋言語文化学院	日本語教師	※	今後見込まれる要請
27	社会基金	村落開発	※	今後見込まれる要請
28	社会基金	地域医療	※	今後見込まれる要請
29	天然資源完全利用技術研究所	セラミック	※	今後見込まれる要請
30	天然資源完全利用技術研究所	農産物加工	※	今後見込まれる要請
31	天然資源完全利用技術研究所	協同組合	※	今後見込まれる要請

98年12月15日

国家外国投資経済発展委員会  
委員長 イサエフ殿  
State Committee of the Kyrgyz Republic  
on Foreign Investments and Economic Development  
(GOSKOMINVEST)  
Chairman,  
Mr.Urkaly Isaev

キルギス共和国協力隊員要請背景調査結果報告書

今般、貴国政府GOSKOMINVESTから要請超しました案件につき、別紙のとおり調査の結果をご報告申し上げます。

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局  
キルギス共和国協力隊員要請背景調査団  
団長 山崎 昇

15 дек. 1998

Государственный комитет Кыргызской Республики  
по иностранным инвестициям и экономическому развитию  
Председателю ГОСКОМИНВЕСТ  
Господину Уркалый Исаеву

Отчет по результату изучения условий запросов  
для первого направления членов  
Японского корпуса добровольческого сотрудничества

Просим принять отчет по результату изучения условий отдельных запросов,  
представленных через ГОСКОМИНВЕСТ.

Японское агентство по международному сотрудничеству,  
Секретариат Японского корпуса добровольческого сотрудничества,  
Глава делегации по изучению условий запросов  
для первого направления членов ЯКДС-а  
Повору Ямадзак



1. Результат изучения условий запросов для первого направления членов Японского корпуса добровольческого сотрудничества (краткое изложение)

	Запрашивающее учреждение	Категория работы	Результат		Замечание
1	Кыргызская государственная медицинская академия	Лектор по подготовке акушеров	×	Отмена запроса	Требуемая квалификация находится на уровне эксперта
2	Кыргызская государственная медицинская академия	Помощник акушеров при практическом обучении	△	Продолжать совещание	Необходимо координировать процедуру внутри Кыргызстана
3	Медицинское училище	Подготовка акушеров	△	Продолжать совещание	Необходимо координировать процедуру внутри Кыргызстана
4	Кыргызский государственный университет строительства, транспорта и архитектуры	Промышленная экология	○	Запрос направляется на официальное оформление	
5	Бишкекский гуманитарный университет	Преподаватель японского языка	○	Запрос направляется на официальное оформление	
6	Кыргызский государственный институт физической культуры	Настольный теннис	○	Запрос направляется на официальное оформление	
7	Кыргызский государственный институт физической культуры	Каратэ	×	Отмена запроса	Наличие уже работающих волонтеров из KOICA
8	Кыргызский государственный институт физической культуры.	Фехтование	×	Отмена запроса	Проблема по снабжению оборудования

9	Кыргызский государственный институт физической культуры	Айкидо	<input type="radio"/>	Запрос направляется на официальное оформление	Документ для запроса (BlueSheat) еще не представлен
10	Кыргызский государственный институт физической культуры	Волейбол	<input type="radio"/>	Запрос направляется на официальное оформление	Документ для запроса (BlueSheat) еще не представлен
11	Благотворительный фонд "Мээрим"	Инженер компьютерной системы	<input type="radio"/>	Запрос направляется на официальное оформление	Документ для запроса (BlueSheat) еще не представлен
12	Благотворительный фонд "Мээрим"	Аранжировка цветов "Йкэбана"	<input type="radio"/>	Запрос направляется на официальное оформление	Документ для запроса (BlueSheat) еще не представлен
13	Благотворительный фонд "Мээрим"	Молодежное сотрудничество	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
14	Благотворительный фонд "Мээрим"	Патронаж	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
15	Благотворительный фонд "Мээрим"	Здравоохранение матерей и детей	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
16	Кыргызское общество слепых и глухих	Воспитатель детского сада	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
17	Кыргызское общество слепых и глухих	Медсестра	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества

18	Кыргызское общество слепых и глухих	Переработка сельскохозяйственных и животноводческих продуктов	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
19	Кыргызское общество слепых и глухих	Инженер компьютерной системы	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
20	Кыргызская государственная медицинская академия	Специалист по физиотерапии	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
21	Кыргызская государственная медицинская академия	Специалист по трудотерапии	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
22	Кыргызская государственная медицинская академия	Инженер клинического лечения	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
23	Кыргызская государственная медицинская академия	Инженер электрокардиограммы	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
24	Кыргызский государственный университет строительства, транспорта и архитектуры	Городское строительство	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
25	Кыргызский государственный институт физической культуры	Дзюдо	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
26	Институт восточных языков и культур при Кыргызском государственном педагогическом университете им. И. Арабаева	Преподаватель японского языка	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества

27	Социальный фонд	Активизация деревни	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
28	Социальный фонд	Активизация медицины в деревне	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
29	Институт природопользования и безотходных технологий	Производство керамики	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
30	Институт природопользования и безотходных технологий	Переработка сельскохозяйственных продуктов	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества
31	Институт природопользования и безотходных технологий	Организация и управление кооперативным движением	※		Запрос, ожидаемый дальнейшего сотрудничества

## 2. Процедура официального оформления запроса

Относительно пунктов, на которые поставлены метки ○, просим немедленно представлять официальные запросы правительства Кыргызстана по форме официального документа японского посольства в Казахстане.

Пункты, документы для запроса (BlueSheat) которых еще не представлен, просим приложить к официальным документам документы для запроса (BlueSheat).

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成10年12月25日

要請番号 (745-99001)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : 人口・環境問題 (職種コード) : 594 (現地用語) : Enviromental Engineering	○新規 交代	男 人 女 人 不問 1人	○11年 3次 絶対の場合○印
配 属 要	1) 配属省庁名 : 教育・科学・文化省 (現地用語) : Ministry of Education, Science and Culture			
	1) 配属先名 : キルギス国立建設・運輸・建築大学 環境工学部 (現地用語) : Kyrgyz State University of Construction, Transportation and Architecture			
	2) 住所 : 34 "B" Malydybaev Str. Bishkek, 720023 主要都市 (ビシュケク) から km 交通手段 ( ) で 時間			
	3) 事業内容及び予算 92年にキルギス建築・建設学院として創立後、98年に改組、現在の名称となる。学生数1万人。10学部(建築学、建設学、建設マネジメント・経済学、運輸・通信学、環境工学、新情報技術学、キルギス・ロシア学、キルギス・アラブ学、国際教育プログラム学、軍事学)、教員は教授(博士)25名、助教授(修士候補)116名が勤務している。			
要 請 概 要	1) 要請理由(目的) : 環境保全に関係する人材を輩出している同大学で、さらなる環境保全教育を推進するために日本の技術を取り入れたい。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 講師 (現地用語) : Lecturer			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 学生対象の実習を行なう際、教授の講義進行を助ける助手的な活動を行なう。1) 水資源の効率的利用が環境に与える問題、2) 回復可能なエネルギー(天然エネルギー: 太陽熱、風力、地熱、ガス)の利用、3) 建設業及び熱・電力エネルギー生産から出る廃棄物除去及び処理の問題の3分野のうちいずれかに知識があり、いずれかの分野の講義の補佐を行なう。また、文献が英語なので、英語力があるほうが望ましい。1日8時間勤務。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) :			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) MR.B.E.Kaparovich 第一副学長(環境工学教授)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 19才から23才までの学生 (大学3年生から5年生)	
7) 訓練すべき言語(ロシア語)				
8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 過去、オーストラリアからポタンティア(英語教師)を受け入れたことがある。				
条 件	学歴、経験、資格 : 大卒(工学部) (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 地中海性気候 任地の人口(約66万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			気温 -5~25°

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99002)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : 日本語教師 (職種コード) : 691 (現地用語) : Japanese Teacher	○新規 交代	男 人 女 人 不問 1人	○11年3次 絶対の場合○印
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 教育・科学・文化省 (現地用語) : Ministry of Education, Science and Culture			
	2) 配属先名 : ビシュケク人文学大学 東洋言語文学科 (現地用語) : Bishkek Humanities University			
	2) 住所 : av.Mira 64, Bishkek 主要都市 (ビシュケク) から km 交通手段 ( ) で 時間			
	4) 事業内容及び予算 : 1969年にロシア教育大学として創立、94年にビシュケク人文学大学に名称が変更となった。8学部 (哲学、社会学、言語学、環境学、経済、国際学部など) 25分野の専門教育を行なっている。学生は6言語 (中国、ベルシヤ、トルコ、韓国、日本、アラブ) のうち、2言語専攻することになっている。これまで、日本語学習者は30名卒業している。全体年間予算 : 約4,200万円			
要請概要	1) 要請理由 (目的) : 年々、日本語受講者は増えているが、教師数が不足している。また、在籍している日本人教師はボランティアで活動しているが、日本語教育が専門ではない。そのため、日本語教授法を習得した人材が必要とされている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : 教師 (現地用語) : Teacher			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 日本語学習者は、100名 (経済学部40名、歴史学部30名、言語学部30名)。うち、初級者は50名、中級者30名、上級者20名。1クラスの人数は、10~19名。1コースの授業時間は1時間80分、週5日、学年によって授業数は異なるが、週5~6時間。隊員が担当する授業数、教授内容、教材、指導項目等は、東洋言語文学科主任、日本人教師 (ボランティア) 2名、キルギス人教師3名からなる日本語教師会にて決定する。日本経済、歴史の知識があることが望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : LL教室、テレビ、ビデオ、ラジカセ、教科書及び辞書が9,000冊			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr.Vladimir Ganobich Lyu (東洋言語分学科 主任) 日本人教師 (ボランティア) 2名 キルギス人日本語教師3名		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 大学1年生から5年生 2年生までは一般会話、3年生から専門分野を日本語で学習する。	
7) 訓練すべき言語 (ロシア語)				
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : KOICA (大学内に韓国センターがある。)、トルコ政府、米国ピースコー等20~30名の外国人ボランティアがいる。				
条件	学歴、経験、資格 : 大卒、日本語教授法 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 地中海性気候 任地の人口 (約66万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)			気温 -5~25°

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99003)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語): 卓球 (職種コード): (現地用語): Table Tennis	○新規 交代	男 人 女 人 不問 人	○11年 3次 絶対の場合○印
配属先概要	1) 配属先省庁名: 教育・科学・文化省 (現地用語): Ministry of Education, Science and Culture			
	2) 配属先名: キルギス国立体育学院 教育学部 (現地用語): The Kyrgyz State Institute of Physical Culture			
	3) 住所: 97, Ahunbau st, Bishkek 主要都市(ビシュケク) から km 交通手段( )で 時間			
	4) 事業内容及び予算: 1955年に創立された国立唯一の体育系大学。学院は2年制、4年制、講師となる5年制、大学院(プロのコーチ)から成る。教師は、教授9名、助教授30名、専任講師31名が在籍している。 創立後、1万人以上の体育専門家を輩出してきた。大学の卒業生は、各種目のコーチとして、イスラエル、ドイツ、フランスなどで活躍している。			
	1) 要請理由(目的): 旧ソ連時代は、子供対象の卓球専門のスポーツ学校もあり盛んであったが、現在は廃校になっている。当校には数年前から授業が設けられ、現在、1、2年生が学んでいる。卓球のレベルを高めるために、今回の要請となった。			
要請	2) 隊員の地位(日本語): 講師 (現地用語): Lecturer			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲: 1、2年生合わせて25名の生徒がいる。1年生前期講義10時間、実習88時間、後期講義2時間、実習70時間、2年生前期講義7時間、実習40時間、後期講義4時間、実習18時間を、カウンターパートを共に担当する。			
概要	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと): 別添写真参照			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Askar Madaliebich Naraliev 学歴: 教育学博士候補、経験: 22年 副学長 44歳 Mr. Binaretdin Sadretdinovich Sultanbaev 教授 ヲカ、ハンドボール、テニス学科主任 48歳		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 17才から22才までの学生 卓球競技経験は7~8年	
条件	7) 訓練すべき言語(ロシア語)			
	学歴、経験、資格 : 大卒、競技経験 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境: 気候 地中海性気候			気温 -5~25°
	任地の人口(約66万人)・日用品: 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99004)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : 合気道 (職種コード) : 763 (現地用語) : Aikido	○新規 交代	男 人 女 人 不問 1人	○11年 3次 絶対の場合○印
要 請 概 要	1) 配属先省庁名 : 教育・科学・文化省 (現地用語) : Ministry of Education, Science and Culture			
	2) 配属先名 : キルギス国立体育学院 スポーツ学部 (現地用語) : The Kyrgyz State Institute of Physical Culture			
	3) 住所 : 97, Ahunbau st, Bishkek 主要都市 (ビシュケク) から km 交通手段 ( ) で 時間			
	4) 事業内容及び予算 : 1955年に創立された国立唯一の体育系大学。学院は2年制、4年制、講師となる5年制、大学院(プロのコーチ)から成る。4学部(教育学部、スポーツ学部、青年養成学部、スポーツ能力再開発学部) 教師は、教授9名、助教授30名、専任講師31名が在籍する。創立後、1万人以上の体育専門家を輩出してきた。 卒業生は各種目のコーチとして、イスラエル、ドイツ、フランスなどで活躍している。			
	1) 要請理由(目的) : 合気道は歴史は浅いが、人気が高い種目である。しかし、資格保有者の職員が不足しているため、今回の要請となった。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 講師 (現地用語) : Lecturer			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 隊員は、カウンターパートと共に合気道と護身術のクラスを担当する。合気道は1、2年生合わせて5名が在籍、護身術は38名が在籍している。また、キルギス合気道連盟には600名愛好者が在籍しており、連盟での指導も期待されている。合気道の授業は、年間で講義10時限、実習78時限。護身術の授業は、年間で講義が20時限、実習が286時限、1時限は45分授業である。できれば、男性が望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 別添写真参照			
要 件	5) カウンターパート(人数、学歴、経歴、地位、年齢) Mr. Naraliev Ascar 副学長 Ms. Gulmiza A. Seytalieva キルギス合気道連盟 会長 初段 他1名 2段		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 21才以上 2段以下	
	7) 訓練すべき言語(ロシア語)			
条 件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) :			
	学歴、経歴、資格 : 大卒、合気道3段(合気会) (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 地中海性気候 任地の人口(約66万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			気温 -5~25°

①募集資料用



青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99005)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : バレーボール (職種コード) : 743	○新規 交代	男 人	○11年 3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Volleyball		女 人 不問 1人	
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 教育・科学・文化省 (現地用語) : Ministry of Education, Science and Culture			
	2) 配属先名 : キルギス国立体育学院 スポーツ学部 (現地用語) : The Kyrgyz State Institute of Physical Culture			
	3) 住所 : 97, Ahunbau st, Bishkek 主要都市 (ビシュケク) から km 交通手段 ( ) で 時間			
	4) 事業内容及び予算 : 1955年に創立された国立唯一の体育系大学。学院は2年制、4年制、講師となる5年制、大学院(プロのコーチ)から成る。4学部(教育学部、スポーツ学部、青年養成学部、スポーツ能力開発学部)教師は、教授9名、助教授30名、専任講師31名が在籍する。創立後、1万人以上の体育専門家を輩出してきた。卒業生は各種目のコーチとして、イスラエル、ドイツ、フランスなどで活躍している。			
要 請 概 要	1) 要請理由(目的) : バレーボールは人気の高いスポーツである。ヨーロッパやアメリカとは違った日本のトレーニング法を取り入れたい。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 講師補 (現地用語) : Assistant of Teacher			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 1年生 年間授業数 : 講義10時限、実習88時限、2年生 年間授業数 : 講義10時限、実習88時限 3年生 年間授業数 : 講義12時限、実習88時限、4年生 年間授業数 : 講義12時限、実習50時限 5年生 年間授業数 : 講義20時限、実習110時限 カウンターパートと共に授業を担当する。できれば、男性が望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 別添写真参照			
要 請 概 要	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. A.M. Naraliev 教育学修士候補 助教授 副学長 46才 Mr. C.N. Arykova スポーツ学科主任・教授 経験16年 36才		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 1年生から5年生(17才から22才) 120名 5年から7年の競技経験	
	7) 訓練すべき言語(ロシア語)			
条 件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) :			
	条件 学歴、経験、資格 : 大卒、競技経験10年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 任地の人口(約66万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			気温

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99006)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : システムエンジニア (職種コード) :623 (現地用語) : System Engineer	○新規 交代	男 1人 女 人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
配属先概要	1) 配属先省庁名: 国家外国投資経済発展委員会 (現地用語) : State Committee of Kyrgyz Republic on Foreign Investment and Economic Development			
	2) 配属先名: メリム慈善基金 (NGO) 児童教育美術館 (現地用語) : International Charitable Foundation "Meerim"			
配属先概要	2) 住所: Razzakov Str, Bishkek 主要都市(ビシュケク)から km Tel:(3312)22-72-08 Fax:22-75-51 交通手段( )で 時間			
	4) 事業内容及び予算: 児童教育を行なっている福祉機関(NGO)である。児童教育美術館は、1995年10月に創設された。コンピュータ教育(援助によって供与された機材がある)、外国語教育、環境教育、生け花、絵画、歌、踊りなどのクラスがある。96年以降、各州及び各地区に児童教育センター(31)を開設し、「農村地区の学校のコンピュータ化とインターネット接続」プログラムなどを行なっている。また、イッリ湖近くに子供の黄金の国を建設し、子供の病気・アレルギーのリハビリ施設も運営している。年間予算は50,000US\$			
要請概要	1) 要請理由(目的): 講師は市内に住む大学の高学年生や大学講師がボランティアで行なっている。ユーラシア基金の援助により、コンピュートールームが開設されている。また、国際機関の援助とプロバイダー-ELKAT社の協力により、インターネットに接続し、2.5ヶ月サイクルで多くの学校と接続されている。コンピュータクラスは2クラスあり4人の講師がいるが、知識を不足しているため、今回の要請となった。			
	2) 隊員の地位(日本語): 講師 (現地用語): Lecturer			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲: コンピュータクラスは2クラスある。月から土曜日まで6日間、1日4時間のクラスを4人の講師と分担または共に行なう。コンピュータグラフィック、インターネット、WEBデザインの操作について、授業を行なう。また、地方の児童教育センターへの巡回指導を行なうこともあり、できれば、男性が望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと): Pentium 166/ram 32/1.76B LG-IBM			
要請概要	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) Mr.A.Nurkamilov 学歴: 技術科学修士候補 40才 コンピュータ・テクノロジーセンター長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 小・中・高・大学生	
	7) 訓練すべき言語(ロシア語)			
要請概要	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置): アジア開発銀行とドイツ大使館からコンピュータクラス 米国ピースコーから英語教師			
	条件 学歴、経験、資格 : (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境: 気候 地中海性気候			気温 -5~25°
	任地の人口(約66万人)・日用品: 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (745-99007)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
キルギス	(日本語) : 生花 (職種1-D) :643 (現地用語) : Ikebana	○新規 交代	男 人 女 1人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
<p>1) 配属先省庁名 : 国家外国投資経済発展委員会 (現地用語) : State Committee of Kyrgyz Republic on Foreign Investment and Economic Development</p> <p>2) 配属先名 : メリム慈善基金 (NGO) 児童教育美術館 (現地用語) : International Charitable Foundation "Meerim"</p> <p>2) 住所 : Razzakov Str, Bishkek 主要都市 (ビシュケク) から km Tel:(3312)22-72-08 Fax:22-75-51 交通手段 ( ) で 時間</p> <p>4) 事業内容及び予算 : 児童教育を行なっている福祉機関 (NGO) である。児童教育美術館は、1995年10月に創設された。コンピュータ教育 (援助によって供与された機材がある)、外国語教育、環境教育、生け花、絵画、歌、踊りなどのクラスがある。96年以降、各州及び各地区に児童教育センター (31) を開設し、「農村地区の学校のコンピュータ化とインターネット接続」プログラムなどを行なっている。また、イリ湖近くに「子供の黄金の国」を建設し、子供の病気・アレルギーのリハビリ施設も運営している。年間予算は50,000US\$</p>				
要 請 概 要	<p>1) 要請理由 (目的) : 副委員長 (Ms.Abdurazakova-Yusupova) は、日本に滞在したことがあり、生花の技術を身に付けている。児童教育美術館では、副委員長のみが生花をのクラスを担当しているが、事業拡大のため同人も多忙であり、生花のクラス数を減らさざるを得なくなっている。生花のクラスを隊員派遣によって充実させ、児童達に日本の伝統芸術に触れさせたい。</p> <p>2) 隊員の地位 (日本語) : 講師 (現地用語) : Lecturer</p> <p>3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 現在は、週1回/1時間のクラスであるが、隊員が着任後はクラス数を増す。児童だけではなく、成人を対象としたクラスも開設したい。副委員長は草月流であるため、流派は草月流が望ましい。</p>			
	<p>4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 生け花8セット</p>			
	<p>5) カウンターパート (人数、学歴、経歴、地位、年数) Ms.M.A.Abduraxakova-Yusupova 学歴 : 教育学修士候補 財務副委員長 56才</p>		<p>6) 指導対象者の技術レベル、年齢 小・中・高・大学生 現在10名</p>	
<p>7) 訓練すべき言語 (ロシア語)</p>				
<p>8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : アジア開発銀行とドイツ大使館からコンピュータールーム。 米国ピースコーから英語教師1名</p>				
条件	<p>学歴、経歴、資格 : (受入に不可欠のみ記入)</p>			
生活	<p>生活環境 : 気候 地中海性気候 任地の人口 (約66万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)</p>			<p>気温 -5~25°</p>

①募集資料用

### 3 協力隊員派遣計画

#### 3-1 協力隊活動のニーズ

協力隊のニーズは以下の理由から非常に高いといえる。

- (1)GNP : 550US\$ (96年 WORLD BANK ATLAS 出典)
- (2)経済 : 資源は乏しく、農畜産業や機械工業、軽工業、食品工業などが主要産業となっているが、いずれの産業も規模は小さい。旧ソ連邦の経済分業体制の崩壊や、経済的結びつきの強いロシアの経済悪化の影響を受け、独立後も厳しい経済状況が続いている。
- (3)国民性 : 民族的に日本人に近く、日本に親近感を持ち、日本の技術、経済、文化に興味を持っている人が多い。

#### 3-2 重点分野

あらゆる分野でニーズは高く、派遣される隊員は多職種に及ぶ見込みであるが、要請優先度が高く中心職種となると思われる分野は以下のとおりである。また、新規派遣国で安定した人数の派遣が望まれるため、充足率の高い職種を優先する必要がある。

##### (1)教育分野

日本語教育は大学で3校、シュコーラ（小・中・高等学校一貫教育）で4校、また、日本センターにおいて実施されている。日本語学習者は増加しており、近年は、大学から日本語を専攻した卒業生は数十名であったが、4～5年後には毎年200名以上の卒業生が見込まれている。

しかし、教師数は不足しており、「キ」国に滞在している日本人がボランティアベースで日本語教師として活躍しているが、留学生で滞在期間（1年）が限られている、日本語教授法を習得していないことなどの問題点がある。要請先から長期滞在（2年）ができ、他教師に対しても日本語コース確立に助言を与えてくれる日本語教授法の知識を持った「日本語教師」隊員の派遣が強く望まれている。

また、社会的弱者に支援する活動としてNGOや障害者施設における、「青少年活動」、「システムエンジニア」、「幼稚園教諭」などの隊員派遣が考えられる。

##### (2)保健医療分野

日本は「キ」国に対する基礎医療分野を援助の重点分野の1つとしており、これまで、研修員受入、無償資金協力での協力実績がある。保健省はこれまでのJICAとの協力実績から協力隊員受け入れに非常に前向きである。

「キ」国は現在、保健医療分野の改革が進んでおり、ヨーロッパ、アメリカの基準になるよう、国民に近い医療を目指している。そのため、首都の医療機関から日本の最新技術を取り入れたいと「助産婦」、「看護婦（士）」、「理学療法士」や「作業療法士」などの要請が今後見込まれており引き続き協議が必要である。その際、「キ」国はロシアで教育を受けた医師が多く医療レベルは高いと思われるので、求められている隊員、派遣できる隊員のレベルを両者が十分に理解し活動内容を形成するよう留意する。

今後の地方展開において、基礎医療のレベルアップを図る意味でも当該分野の隊員派遣は有効であり、「看護婦（士）」、「保健婦（士）」、「ソーシャルワーカー」の派遣が考えられる。

##### (3)農業分野

国土の半分の1,010ヘクタールが農用地で、うち約85%が放牧地で残りが耕地である。旧ソ連下では専門的に羊毛生産が行なわれ、穀物生産は重視されてこなかったため、食糧

自給は需要の半分しか達成されていない。

また、地方の農民は農産物を作っても売る手法を知らないことが問題である。そこで、政府は、特に農業層を改善する目的で、アラケット（貧困と戦う）プログラムを実施しており、流通や市場の改善を目指している。

今後地方展開を進める上で、要請発掘の可能性が高い分野である。「農業協同組合」、「農産物加工」、「畜産物加工」、「村落開発普及員」などの隊員派遣が考えられ、また異職種（「野菜」、「家畜飼育」）との連携により効果的な協力が期待できる。

### 3-3 その他

イスラム教国であり、職種や地域によって性別が限定されることが予想されるので、要請背景調査時に任地での生活状況などを確認するよう留意が必要である。

### 3.4 事業展開 (案)

要請開拓	募集時期	11春 99.2 ～ 99.8	11秋 99.8 ～ 00.2	12春 00.2 ～ 00.8	12秋 00.8 ～ 01.2	13春 01.2 ～ 01.8	13秋 01.8 ～ 02.2	14春 02.2 ～ 02.8	14秋 02.8 ～ 03.2	15春 03.2 ～ 03.8	15秋 03.8 ～ 04.2
	新規要請	7	0	10	15	15	15	15	15	15	15
	年度要請	7		25		30		30		30	

隊員派遣	隊次	11/3 (00.4)	12/1 (00.7)	12/2 (00.12)	12/3 (01.4)	13/1 (01.7)	13/2 (01.12)	13/3 (02.4)	14/1 (00.4)	14/2 (00.4)	14/3 (00.4)
	新規派遣	7	0	5	5	7	7	7	7	7	7
	年度派遣	7	10			21			21		
	常駐派遣数	7	17			31			42		
	年度	11	12			13			14		

- (1) 平成11年度3次隊の派遣にあたっては、調整員を半年前に(99.9)に派遣し、隊員の受け入れ準備(事務所の開設、現地訓練の選定、医療施設の選定)、隊員配属先との最終調整(隊員の住居等)、平成12年度春募集の要請背景調査を行う必要がある。
- (2) あらゆる分野で、ニーズが高いこと、隊員らしい活動が可能な配属先が多いこと、全土にわたって治安状態が良く地方展開が期待されていることから、事務所機能が一旦確立してからは、年間30件以上の要請開拓が可能である。(米国ピースコーは、93年から派遣が開始され、98年12月現在、72名が活動中)
- (3) 平成13年度以降は、常駐派遣数が30名以上になり、早い時期に50名以上の体制になるものと考えている。従って、13年度には調整員1名体制から2名体制に移行することが考えられる。

#### \*事業展開の上での懸案事項

- (1) 在外公館がなく、「キ」側の日本の援助システムの理解が十分でないこと、協力隊員の後方支援(有事の体制確立等)が未整備であること。
- (2) 通信事情が非常に悪いので、緊急連絡網の早期確立が不可欠である。

## 4 調査概要

### 4-1 協議内容

12月 8日 16:00～17:30

日本センター（志賀所長、萩原講師）

1) 山崎団長から、本調査団の目的、調査方針を述べた。日本語教師の要請があり、当地での日本語教育についてコメントを求めた。また、現地事務所開設に伴い、現地スタッフの雇用の可能性について助言を求めた。

志賀所長及び萩原講師の発言は以下のとおり。

- 1) 日本語の人気は高い。その一貫として、今年9月から東洋言語文化学院（教育大学）に新しく日本語のクラスができた。1年生、11クラス、約120名の学生が在籍している。
- 2) 当地での日本語教育機関として、これまで、主力はキルギス国立民族大学と今回協力隊員の要請があったキルギス人文学大学であった。日本語教育の歴史は民族大学が古く、その後、人文学大学に移り、現在両方が育っている。
- 3) シュコーラ（小、中、高等学校一貫教育）でも3校位日本語を教えている。
- 4) 各大学から日本語専攻の卒業生は出ているが、まだまだレベルは低く、日本語講師として大学で講師となる人材が需要に追いついていない。教師は頭数を揃えているだけになっている。優秀な生徒は卒業後、日本語講師となり大学には残る。しかし、給料は安く、大学講師は恵まれていない。
- 5) 日本人のボランティアベースの先生がこの2ヶ月で3大学で4名増えた。日本語教授法を習得した人と、当地に滞在していて日本語の教授経験がない人がいる。
- 6) 中、高等学校レベルに協力隊員を派遣できると良い。大学レベルを強化するのもいいけど、人数からいうと大学入学前の生徒が多い。
- 7) Japan Fundationから、日本語教材（図書）が科学アカデミーと中央図書館に寄贈されている。
- 8) 当地に事務所を設置する際、日本語が話せる現地職員を雇用することは可能である。毎年、大学から十数名の卒業生がいるし、日本センターには、社会人で日本語が必要で勉強している人や大学で他の学部（法、国際関係など）を専攻している学生が日本語に興味を持って、当センターで日本語を勉強している人もいる。しかし、卒業後間もない人は、どこの国でもそうだが、使いものにならず手間をかけ育てていく必要がある。たとえば、ロシア語の文書をふさわしい文書で書けるように教育する必要がある。ただ、才能がある人もいる。
- 9) 当地には資格試験がない。卒業したら、すぐ専門家になれると思っている。今後、4～5年後には1度に日本語を習った200人以上の学生が卒業する。就職先が心配である。求めてくれる企業が増えることを願っている。
- 10) 今後の要請元として、第1寄宿学校などが考えられる。14～16才の生徒に日本語を教えている70才の先生がいる。しかし、会話が苦手なので、若い協力隊の先生が来てくれたら喜ぶと思う。第5、第6、第67学校など他にも日本語教師が来て欲しいと願っているところは沢山ある。父兄も学校に外国語を教えて欲しいと求めている。

12月 9日 9:00～10:30

援助窓口：国家外国投資経済発展委員会

(イサエフ委員長、モカンヴェトフ推進専門家、

オモロヴァ推進専門家、アブチルダエヴァ推進専門家)

- 1) 山崎団長から、本調査団の目的及び調査方針を述べ、以下のとおり発言があった。  
要請が6件あったが、まず現場を見てみないとわからないが、そのうち2件(国立医学アカデミー：産婦人科医師養成、国立建設・運輸・建築大学：環境工学)は、隊員レベルでは対応が困難かもしれない。必要な要請であり、且つ、隊員レベルで困難な場合は、他のスキーム(専門家)で要請することをキルギス側として検討する必要がある。
- 2) イサエフ委員長から、以下のとおり発言があった。中央アジアで初の隊員派遣国となることは大変嬉しく思っている。また、協力隊活動は非常に期待しており、早く派遣が開始されるようご尽力して頂いたことに感謝している。当地には日本センターがあるので、日本文化、日本語に親しんでいる人が増えている。こういう土台があった上で、協力隊派遣は有意義である。現在、アメリカンピースコーが20名活動しており、地方展開している。地域住民に良い影響(英語力等)を与えている。また、キルギスの若者は、日本のスポーツに興味を持っており、空手や合気道を紹介してくれることも望んでいる。女子は、生花や茶道にも興味を持っている。
- 3) 山崎団長から、今回の要請の中にはないが、昨年訪問したNGOメリム慈善基金と盲人・聾啞者協会に社会的弱者に対する支援活動として分野に要請の可能性があり、今回併せて調査を行うが、政府として、NGOへの派遣は支障はないか確認した。
- 4) イサエフ委員長から、以下のとおり述べられた。NGOの所管省庁は、大統領府社会政策部になり、メルム慈善基金は、青少年活動とリンクしている。各地に施設を持っており、仕事の範囲が広いので面白い。この国で非常に有名な組織でもあり、隊員が派遣されても問題ない。
- 5) 山崎団長から、事務所開設に係る住居の確保及び隊員海外手当てに係る情報提供を求めた。
- 6) イサエフ委員長から、以下のとおり発言があった。物件は沢山あり、探すのは問題ない。例えば、4部屋のアパートで、月に約US\$1,500である。
- 7) イサエフ委員長から、隊員の海外手当ての決定に関し、当国の公務員の平均給与は、300ソム(約US\$15)であるが、ほとんどの場合食料は自供自足している。しかし、この額は非常に少なく、隊員の海外手当は公務員の給与だけを基準にしないで他の要素を考慮してほしい旨述べられた。

12月 9日 11:00～11:50

保健省(カシエフ大臣、ボリス対外関係部長、カジエフ教育・科学・人材資源局管理部長)

- 1) 保健大臣から、歓迎の意が述べられ、以下のとおり発言があった。当国では現在、医療分野の改革が行われている。助産婦の学校が全国で10校あり、ビシュケクの医療学



校が中心となっており、そこからも要請（非公式）があり、時間があれば併せて調査して欲しい。

- 2) 山崎団長から、調査団の目的が述べられた後、以下のとおり発言があった。要請があったキルギス医学アカデミーの要請背景調査を行う。また、本要請は、大学で将来医者となる学生の先生となる要請であるが、キルギスの医学分野はロシアの影響を受けて水準が高いと思われる。協力隊員は25、6才と若く経験が少ない人なので対応が困難であると思われる。現場を調査しないと、判断できないが、専門家（短期を含む）が適当と思われる。

12月 9日 12:00～

キルギス国立医学アカデミー（アキャレベコフ学長他）

要請職種：産婦人科医師養成

- 1) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。協力隊員の年齢及び経験から、レベルが高く対応が困難と思われる。要請に至った理由を教えて欲しい。
- 2) 学長から、以下のとおり発言があった。現在、当国は医療制度の改革が進んでいる。ヨーロッパ、アメリカの基準になるよう、国民に近い医療を目指している。ホームドクターを目指し、改革しているので、教育制度も変わっていく。先生達も変革を迫られている。本要請は、学生に講義をするのではなく、先生のための先生となる人材の要請であった。しかし、山崎団長の話しから、隊員レベルではないことは理解できた。もう一つ考えがあり、それは隊員がインターン生と実習して共に成長していくのはどうかと思う。医療の進歩は早く追い付くことができない。協力隊員が突破口になると思う。
- 3) 実習担当の副学長から、以下のとおり発言があった。実習担当の医師隊員は、医学アカデミーを拠点として、通常インターン生が実習を行っている病院を2ヶ月おきに巡回する。職種は産婦人医だけでなく、小児科医、理学療法士、臨床検査技師、診療放射線技師隊員も希望する。
- 4) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。当初の要請は、医師を養成する大学の先生のための先生であったが、協議の結果、本要請が取り下げとなり、急速要請内容が変更となった。医学アカデミーで、若い隊員がどのような活動ができるか内部で再検討して欲しい。継続検討案件として、来年12月に派遣されるJOCV調整員とも協議して欲しい。

12月 9日 14:00～

医療学校（ジャンチロフ校長他）

今後要請の見込まれる職種：助産婦

- 1) 学長から、以下のとおり発言があった。当校では、助産婦、看護婦及び歯科技工士を養成している。約2年7ヶ月で卒業する。助産婦は毎年25名（各学年約6グループに分れている。3学年計15グループ。）、医師の資格を持つ助産婦が100～150名

入学する。看護婦は3年間で卒業する形態に変わった。教師数は、140名。隊員には、生徒に講義を行って欲しい。

- 2) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。助産婦の場合、隊員の技術レベルから可能な活動は先生について助手的な役割をすることや地方の診療所で活動することである。
- 3) 学長から、農村の活動となると、当校の活動とリンクしないと述べられ、隊員が派遣された際は教材や資材等を持参するのか質問があった。
- 4) 山崎団長から、以下のとおり回答した。原則として隊員は身一つでの派遣である。機材に期待するのであれば、JICAの他のスキームで必要な機材が検討される可能性につき、外国投資庁と協議してはどうか。協力隊員の派遣の可能性については、パンフレットを読んで頂いて、活動の場があれば、来年、派遣されるJOCV調整員や外国投資庁と検討の上要請して欲しい。

12月 9日 16:00～

教育・科学・文化省（キム副大臣他）

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられた後、以下のとおり発言があった。教育・科学・文化省管轄の5件の要請の要請背景調査を行う。また、国立建設・運輸・建築大学の講師要請は、協力隊員は25、6才と若く経験が少ない人なので対応が困難と思われる。現場を調査しないと、判断できないが、専門家（短期を含む）が適当と思われる。また、日本語教師等については、将来的には第1寄宿学校など、シュコーラ（シュコーラとは、大学入学前の教育機関。キルギスは小、中、高等学校一貫教育）から要請がある可能性があるのではないか。
- 2) 次官から、以下のとおり発言があった。国立建設・運輸・建築大学の学長は熱心な人なので、隊員の派遣が難しいことは残念である。要請背景調査と聞いているので、隊員が活動しやすい形の活動内容について各配属先に助言して欲しい。人文学大学の日本語レベルは高く、隊員には日本語だけではなく、日本文化を教えてくれることも期待している。第1寄宿学校の日本語教育については、詳しくは承知していない。

12月10日 9:00～

国立建設・運輸・建築大学（テンティエヴ学長、カバロピッチ副学長他）

職種：環境工学

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられた後、以下のとおり発言があった。環境工学の授業を担当することは、隊員のレベルでは対応が難しいと思われる。要請内容の詳細を聞かせて頂きたい。
- 2) 副学長から、以下のとおり発言があった。当校はこれまでも、他国のボランティアを受け入れたことがあり、受け入れの経験も理解もある。学生の年齢は17才～28才位であり、エンジニアは難しいと思われるかも知れないが、40%が女性である。隊員の

活動は学生と共に実習を行う内容に変更したい。当初では、講師が大卒である場合が多いので、隊員で十分対応できる。学校側も十分にサポートしていきたい。また、将来的には、都市工学にも隊員派遣の要請を出したい。

12月10日 11:30～14:45

ビシュケク人文学大学（シャカベック副学長、タラスベック学部長他）

職種：日本語教師

- 1) 副学長から、大学の概要説明があり、以下のとおり発言があった。日本語の人気が高く生徒数も多いが、教師数が不足している。現在、教師6名いるが理想として10名は必要である。学部で3つの専門コース（経済、歴史、言語学）に分れているので、各分野の知識を持った人が望まれる。
- 2) 山崎団長から、応募者の中に歴史、経済、文化（言語）等の専門分野の知識があり、且つ、日本語が教えられる人は少ない旨述べられた。
- 3) 副学長から、以下のとおり発言があった。1、2年生は日本語の学習だけなので、その授業を担当してもらうことも出来る。専門分野の知識や日本で外国人日本語を教授した実務経験は必ずしも必要ではない。日本語教師陣で、担当する授業は調整可能である。当大学には、20～30人の外国語に係るボランティアが派遣されており（KOICA、ピースコー、トルコ政府など）、受け入れ体制には問題ない。隊員の派遣を待ち望んでいる。

12月10日 15:00～17:20

キルギス国立体育学院（ナラリエヴ副学長、イマナリエヴ副学長、

シェタリエブ講師）

職種：卓球、合気道、バレーボール

- 1) 副学長から、学院の概要が説明され、以下のとおり発言があった。当初、要請を出した空手については、既に韓国からボランティアを受け入れており、取り下げることとしたい。また、同じく要請を出したフェンシングについても、機材が準備できていないので取り下げることとしたい。しかし、新たに、合気道とバレーボールの要請を出したい。
- 2) 調査団から、新たに提出された要請内容を調査したところ、隊員の派遣が適当であり、対応も可能と判断したので、要請書の公式化を依頼し、背景調査を行なった。

12月10日 17:45～18:00

教育・科学・文化省（キム副大臣に対する調査結果報告）

- 1) 山崎団長から、同省所管の要請（国立建設・運輸・建築大学、ピシユケク人文学大学、キルギス国立体育学院）の配属先との協議を終了し、環境工学、日本語教師、卓球、合気道、バレーボールの要請に対し、隊員の募集・選考を実施する旨報告した。

12月11日 9:00～9:30

労働・社会・保障省（リヤサリエヴ大臣、カキモラ対外関係部部長、  
オケイエラ対外関係部次長

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられた後、以下のとおり発言があった。キルギス政府が力を入れている弱者救済に協力隊員がお役に立てる場があるのではないかと。メリム慈善基金と盲人・聾啞者協会を訪問する予定だが、その他このような分野の要請の可能性についてコメントを頂きたい。
- 2) 大臣から、歓迎の意が述べられた後、昨年、事前調査団の来キの後に、外国投資庁（GOSKOMINVEST）に協力隊の要請（1.専門家要請、2.市場経済、3.システムエンジニア）をしたが、返答がなかった。（同行しているGOSKOMINVESTのスタッフの説明では、EN締結以前の要請であり、回答ができなかったとのこと。）これについては、アジア開発銀行からの支援で問題は解決している。今回は、当国で問題になっている身障者のリハビリテーションについて、協力の可能性をお聞きしたい。まず、国内には11,000人の恵まれない子供や身障者がいる。孤児院もあり、場所と人は確保できている。ただ、足りないのは、機材だけである。機材供与をお願いしたい。
- 3) 山崎団長から、JICAの協力分野について説明をした。協力隊活動は、JICAの協力分野の青年を派遣する事業であり、機材が伴わないこと、基本的には配属先にある機材を活用し、キルギス国民と共に創意工夫して発展していく努力をする旨述べた。
- 4) 大臣から、協力隊事業に誤解があったようなので、GOSKOMINVESTと改めて相談する旨述べられた。

12月11日 11:00～13:00

メリム慈善基金（アブドゥラザコヴァ財政副館長、スベトラナ副館長）

職種：システムエンジニア、生花

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられた後、以下のとおり発言があった。昨年、事前調査団で訪問した際、メリム慈善基金からシステムエンジニアの要請があったが、今回、要請はGOSKOMINVESTに提出されていないが、どのようになっているか。
- 2) 財政副館長から、歓迎の意が述べられ、慈善基金の組織概要と活動内容の概略が説明され、以下のとおり述べられた。当基金から要請したいのは、システムエンジニア、生花、青少年活動、日本語、母子保健、ソーシャルワーカーなどの分野である。地方に31の教育センターがあり、様々な教育事業を行っている。子供や女性に係るプロジェ

クト、農村での活動も行っている。派遣される隊員は何名なのか、地方へも派遣ができるのか。

- 3) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。もちろん、地方展開を得意とする協力隊であり、そうしたいが、まずは、ビシユケクでの活動となるシステムエンジニアと生花の要請を受け入れたい。地方への派遣は、初代隊員の活動ぶり等、協力隊活動に対する相互理解の上拡大するのが賢明と考える。今後配置されるJOCV調整員及びGOSKOMINVESTとも継続協議して欲しい。

12月11日 15:00～17:00

盲人・聾啞者キルギス協会（マンベタクノボ会長、シャディオガリエヴ副会長  
クジェリ工場長）

今後要請の見込まれる職種：幼稚園教諭、看護婦、農・畜産物加工、  
システムエンジニア

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられ、協力の可能性を確認した。
- 2) 会長から、以下のとおり協会の概要説明があった。当国には、8,800人の身障者がいる。盲目の人は4,900人おり、その内のほぼ100%をこの協会で受け入れている。全国的にも53カ所の施設（うち11の工場兼企業）を持っている。しかし、ロシアの経済危機のあおりを受け、政府援助のない当協会にとっては製品の注文はあっても、原材料を購入する資金がない。先般、ヨーロッパに協力要請をしたが、断わられた。キルギスはアジアなのだから、日本に頼んだらどうだろうかと言われた。
- 3) これに対し、山崎団長から事情は察するも、協力隊ではそのような要請には応えられないこと、併せて、協力隊活動について補足説明を行い、会長の理解を得た。
- 3) クジェリ工場長（事前調査時のJOCVセミナーにも出席した人物で協力隊のスキームを良く理解している。）から、以下のとおり発言があった。IMFと世銀の協力を得て、身障者のための9つのプロジェクトが始まろうとしている。1.住居やホテルの建設、2.幼稚園建設、3.医療センター、4.音楽センター、5.コンピュータ教育センター、6.7.8.農業分野（加工業、乳製品など）、9.梱包用品製作である。これらの分野に隊員を要請できないか。
- 4) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。9つのプロジェクトがいずれ完成した後に、幼稚園教諭、看護婦、農・畜産物加工、システムエンジニアなどの隊員が活動できると思う。今後、配置されるJOCV調整員とGOSKOMINVESTとで継続検討して欲しい。

12月14日 9:00~10:15

社会基金（ウチャケンヒロヴァ委員長）

今後要請の見込まれる職種：村落開発、地域医療

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられ、社会的弱者の救済に協力隊の活動の可能性がないかを確認した。
- 2) 委員長から、組織概要が説明され、以下のとおり発言があった。55万人の年金生活者のうち、8万人が身体障害者である。国家は身体障害者に対する保護（免税措置等）を行っていない。当組織は年金生活者の基金であったが、年金生活者の中の身体障害者が多いので国家から面倒をみるように2ヶ月前からそういう話しになっている。基金が赤字になってしまう。身体障害者の医療体制も悪い。また、身体障害者は、民芸品を作ったり、地方の農村で農産物を作ったりしているがそれらを売る方法知らない。このような分野で協力して頂けないか。地方には各支部があり、地方での活動をお願いしたい。
- 3) 山崎団長から、以下のとおり、発言があった。村落開発や地域医療隊員に活動の場があると思う。メリム慈善基金に隊員を派遣する予定なのでその活動や協力隊のパンフレットを参考にして今後、配置されるJOCV調整員とGOSKOMINVESTとで継続検討して欲しい。

12月14日 14:10~14:30

天然資源完全利用技術研究所（イリミディン講師）

今後要請の見込まれる職種：セラミック、農産物加工、協同組合

- 1) イリミディン講師は、国立建設・運輸・建築大学の講師でもある。同研究所は、環境工学について研究を行っている機関であり、セラミック、農産物加工及び協同組合の分野で隊員を派遣してもらえないか説明があった。
- 2) 山崎団長から、十分に派遣の可能性はあるので、さらに詳細に活動内容を研究所内で検討し、今後、配置されるJOCV調整員とGOSKOMINVESTとで継続検討して欲しい旨述べた。

12月14日 16:00~17:50

教育大学及び付属東洋言語文化学院（ベクバライエブ学長、アタハノブ学院長、  
伊藤アドバイザー）

今後要請の見込まれる職種：日本語教師

- 1) 学長から、大学の概要が説明され、以下のとおり発言があった。今年から、付属機関として東洋言語文化学院が設立され、1年生だけで300名の生徒がおり、うち日本語学科には150名の生徒が在籍している。キルギスはアジアであり、この大学を通じて、アジアの国とキルギスの国の架け橋となるような人材を教育することを目的として

いる。

- 2) 学院長から、以下のとおり発言があった。現在、日本語学科には5人の日本人教師と5人のキルギス人教師がいるが、今後生徒数が増える見込であり教師数が足りない。学科のリーダーシップを取って、中心になってくれる人を派遣して欲しい。
- 3) 山崎団長から、以下のとおり発言があった。隊員の年齢、レベルから学科主任のような任務は少し重いと思う。隊員の活動内容を再検討して欲しい。こちらで、日本語を習得した学生の将来の就職先はどうか。
- 4) 学院長から、これに対し、以下のとおり発言があった。日本語教育はシュコーラ（小・中・高等学校）で広めていこうという動きがあるので、その教師や、日本語関係の就職先が考えられる。また、当学院は、英語も同じだけ力を入れており、両学科（英語と日本語、英語と韓国語など）を同じレベルで教育している。英語での就職先もある。学院を発展させる計画は沢山あり、10年後には完成された形になると思う。
- 5) 山崎団長から、協力隊のパンフレットを参考にして今後、配置されるJOCV調整員とGOSKOMINVESTとで継続検討して欲しい旨述べられた。

12月15日 16:00～18:00

国家外国投資経済発展委員会への調査報告及び協議  
(アブディナシロフ副委員長、クブイエヴァ部長他)

- 1) 山崎団長から、調査結果一覧表に沿って調査報告を行った。将来的には隊員の派遣は、地方に対する村落開発、地域医療及び青少年活動に拡大の可能性があると述べられた。
- 2) 副委員長から、大統領プログラムについて、以下のとおり説明があった。また、今後の隊員の活動内容は、これら政府の方針に係る分野での協力を期待している旨述べられた。
  - (1) アシラープログラムとは、経済危機を救うために、住民の生活と企業活動の活性化を目指している。
  - (2) アラケット（貧困と戦う）プログラムとは、特に農業層の改善プログラムである。流通や市場を改善することを目指している。
  - (3) 生活の進歩・確立プログラムとは、「キ」国は改革が進んでおり、それに伴うように精神的な成長を助けることを目的としている。
  - (4) 21世紀の職業人を育てるプログラム
- 3) 副委員長から、NGOの所属省庁については、複数にまたがっているので、当面はGOSKOMINVESTが所管することとする旨述べられた。
- 4) 背景調査を行った7件の要請を公式化することで合意した。
- 5) 山崎団長から、公式化の手続きにつき説明をし、口上書（未提出分のブルーシートを添付の上）を在カザフスタン日本大使館に送付されるよう要請した。

## 4-2 他国援助機関の動向

米国ピースコー（バード所長）

12月14日 10:50～12:00

- 1) 山崎団長から、調査団の目的が述べられ、ピースコーの活動状況、訓練方法、海外手当、住居、特権免除（IDカード等）、治安状況に対する対応、他国の政府機関及びNGOの活動の有無、活動上の問題点を質問した。
- 2) バード所長から、以下のとおり、回答があった。
  - (1) 93年から派遣が開始され、現在、72名（教育分野51名、経済開発分野21名）が地方を含めて活動中である。派遣累計は188名である。
  - (2) 訓練については、米国で4日間のオリエンテーション、キルギスでは独自のプログラム（村落にホームステイしての語学訓練等）で約3カ月の訓練を行っている。
  - (3) 海外手当は、1,445ソム（約US\$50）/月である。市場調査やボランティアの意見を取り入れて決めている。規定については、ボランティアから少ないと言われている。
  - (4) 住居は、配属先が手配している。入居前に配属先と家主とで契約書を取り交わしている。そのコピーをボランティアが携帯しており、問題が生じた際に活用している。
  - (5) IDカードは、ピースコーと「キ」国外務省からボランティアには発給されている。外務省のカード（Technical Card）は、非常に重要である。ロシア語とキルギス語で併記されており、「キ」国は交通費やホテル代がローカル価格と外国人価格で設定されている場合があるので、それについてはローカル価格で対応することが記載されている。また、税金17%についても免除となっている。
  - (6) 緊急対策のハンドブックを毎年作っている。緊急連絡網もあり、電話がない隊員のところには、近くの隊員が駆け付けることにしている。
  - (7) 他国の援助機関については、承知しているのは政府機関では国連（UNV）、NGOについては沢山活動しているが詳細は把握していない。「キ」国のNGOでも、700団体が存在する。
  - (8) 活動の問題点は、まず語学である。英語教師はいいが、他職種のボランティアは最初の12ヶ月は機能していない。ロシア語で仕事をするのは大変である。2年の活動後、ロシア語及びキルギス語が使い物になっているのは、全体の20～25%である。ボランティアは平均して20代後半の世代であるが、主張が強いので地元の人とのコミュニケーションにも問題がある。「キ」国の生活スタイルに適應できないボランティアもいる。米国人は、肉食主義者が多く、食事の面でも苦勞している。地方ボランティアは冬場は暖房施設がない場所で活動している場合もあるので、寒さでも苦勞している。



### 4-3 事務所関連

(主にGOSKOMINVEST、他援助機関、日本人専門家からのヒアリング)

#### (1)事務所物件

事務所物件探しの方法としては、1)GOSKOMINVESTにあらかじめ条件を伝え、いくつか候補物件を上げてもらう方法、2)新聞広告で物件を探す、3)地元不動産業者を通じて探すなどの方法がある。1)については、委員長よりいくつか物件を探すことは可能であると話しがあった。一般的な相場として、アパート（4部屋）で月/1,500US\$位、一戸建てで月2,000~3,000US\$位である。物件は豊富なので、探すことに問題はない。

#### (2)現地傭人雇用等

日本語を学習した人が多いので、日本語一語の通訳が増えている。日本語で対応できる人材を確保することは可能である。但し、卒業後間もない人は、どこの国でもそうだが、露語で公式文書が書けるよう教育する必要はある。傭人確保の方法としては、1)GOSKOMINVESTに条件を提示して然るべき人材を紹介してもらう、2)各大学、日本センターに募集広告を提示する、3)新聞広告欄に提示するなどが考えられる。給与としては、公務員の給与表を入手しているので参考にできる。

#### (3)現地語訓練

語学訓練先として、大学で語学コースを実施することは可能である。ピシユケク人文学大学では、露語の1ヶ月間の語学・文化の講座をアレンジできるので必要な時は相談にのると話しがあった。なお、ピースコーは、独自のプログラムを実施しており、地方の村落にホームステイするなどの語学訓練を行なっている。

#### (4)調整員の住居

(1)と同じ方法で探すことができる。値段も上記範囲内で対応可能である。

#### (5)隊員の住居

ピースコーの住居は全て配属先が手配しており、協力隊の要請先も寮などを手配してくれることを約束しているので心配ないと思うが、将来、協力隊が住居費を設定する必要があることは考えられる。一人用のアパートであれば、50~100US\$で借りることができる。

## 4.4 生活環境

### (1)市内交通事情

公共交通機関であるトロリーバス、バスがもっとも一般的であり、料金も非常に安い。タクシーもあるが自タク業が一般的であり、運転手に割高の請求をされることが多い。通りで手をあげると止まる。道路は信号制御されているが、近年、車の数も多くなり渋滞も発生している。車両、歩行者ともに交通マナーは良くないため、十分に注意を要する。

### (2)医療事情

医療機関：病院は数多くあるが、設備も薬品も十分ではないところが多い。国連ボランティアは一般の病院ではなく、外国人専用のARMS(The Assessment and Referral Medical Service) Clinicを利用している。ARMS Clinicで受診するには、年間契約で個人で50US\$、家族で100US\$の登録料が必要である。1回の受診には基本受診料40US\$とかかった試験料と薬代を別途支払うことになる。診療時間は月から金、1時から5時まで、時間外、緊急時の診察も可能である。予防接種を持ち込むことも可能である。

予防接種：入国時に必要とされる予防接種はない。

赴任時に考えられるもの：破傷風、狂犬病、ジフテリア、A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎

### (3)治安状況

空き巣、ひったくり及び強盗等の犯罪は頻繁に発生しており、凶悪犯罪も時々発生している。最近では、外国人宅を狙った空き巣が増加しており、邦人が被害にあったケースもあるので、警戒が必要である。実際の犯罪件数は統計上の数より多い。夜間のひとり歩きは危険なので避けた方がよい。

### (4)電話

電話設備は旧式のものが多く、通信事情は非常に悪い。ビシュケク市内の電話回線はある程度整備されているが、混線、不通が頻繁であり雑音などで聞き取りにくいことがある。

### (5)郵便

以前は国際郵便はもとより国内郵便でさえ信頼性は低く、効率は非常に悪かったが、最近では改善されてきている。日本とは航空郵便で1ヶ月を要すること多い。郵便ポストに投函することは禁物である。

## 隊員月額生活費

国名 キルギス

1 US \$ = 30 Som

支出項目	品目	数量・単位	単価(現地通貨)	US \$ 額	備考(補足説明等)
被服費	運動靴	1足/12月	600		
	下着(シャツ、パンツ)一式	一式/6月	100		
	Yシャツ(通動用)	1枚/6月	500		
	ブラウス(通動用)	1枚/6月	300		
	Tシャツ	1枚/6月	200		
	ズボン又はスカート(通動用)	1着/24月	1,400		
	ジーンズ	1着/24月	1,000		
	防寒着(オーバーコート類)	1着/24月		300~350	
	防寒着(セーター)	1着/24月		300	
	雨具(雨合羽)	1着/24月		200	
	その他の衣類				
食費	自炊	1ヶ月	2,400~3,000	80~100	砂糖(1Kg) 14som、塩(1Kg) 5som、 パン(1コ) 4som、卵(10コ) 20som 紅茶(100g) 17som、米(1Kg) 16som *ほとんど家賃に含まれている。
	外食	1食	40		
	下宿支払い				
光熱費	電気代(月当たり使用量)	1kw 14円	平均30		*ガス代は来年から50%値上げ
	水道代( " )	1人/110	110		
	ガス代( " )	1人/17	17		
	灯油代( " )				
日用品	石鹸	1個	13		
	シャンプー(250ml)	1本	60		
	歯磨粉(70g)	1本	25		
	トイレットペーパー	1巻	7		
	洗濯洗剤(450kg、 " )	1箱(本)	35		
	その他の日用雑貨(消耗品)				
	食器(大皿、小皿、スプーン、 フォーク、コップ、カップ等)	1式	800		
	シーツと掛けぶとんカバー	1枚/12月	200		
	ブランケット	1枚/24月			
	毛布(掛けぶとん)	1枚/24月	200		
嗜好品	コーヒー(200g程度)		130		
	清涼飲料水(コーラ等)		20		
	ミネラルウォーター(1.5ℓ)		20		
交通費	バス代(市内料金)		1回バス 2,バス 3.5		
	タクシー代(市内料金)		15~40		
	ガソリン(単車貸与者)	1リットル	40		
通信費	国際郵便	日本	12		
	国内郵便		1		
	国際電話	日本へ3分	318		
	国内電話	1回	2		
交際費	冠婚葬祭等				
教養費	新聞		5		
	週刊誌	露語	20		
	語学学習費(書籍)		400		
備人費	賃借員				
その他	散髪(パーマ代含む)	現地/ホテル	300		
	映画		20		
	文房具	ノート・鉛筆	30・10		
	国内小旅行				
	フィルム(24枚撮)	1本	85		
	現像代(24枚撮)	1枚8/24枚	192		
	銀行引出手数料	1回400\$引出		40	*一回に400\$程度引出した場合の 手数料10%
	備蓄用食料・飲料水				

\* 食費(外食)は一般人が利用するレストラン等での平均的定食1食あたりの価格を記入。

\* 国の事情により不必要な物(防寒着等)は記入不要です。

\* 耐久品及び数ヶ月に1度必要な物については次のように記入。(記入例:運動靴を1年に1足購入→「1足/12月」)

\* 任国の事情により、特に多く必要な物品、或いは高額だが必要不可欠な物品がある場合はその積算根拠・理由を補足すること。





医学アカデミー

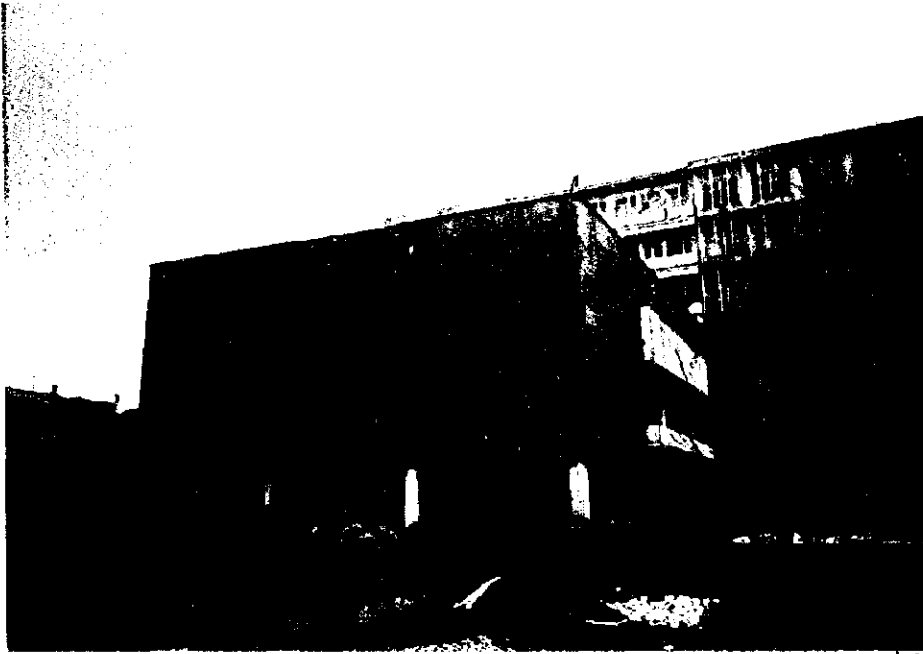


医療学校



校長との協議

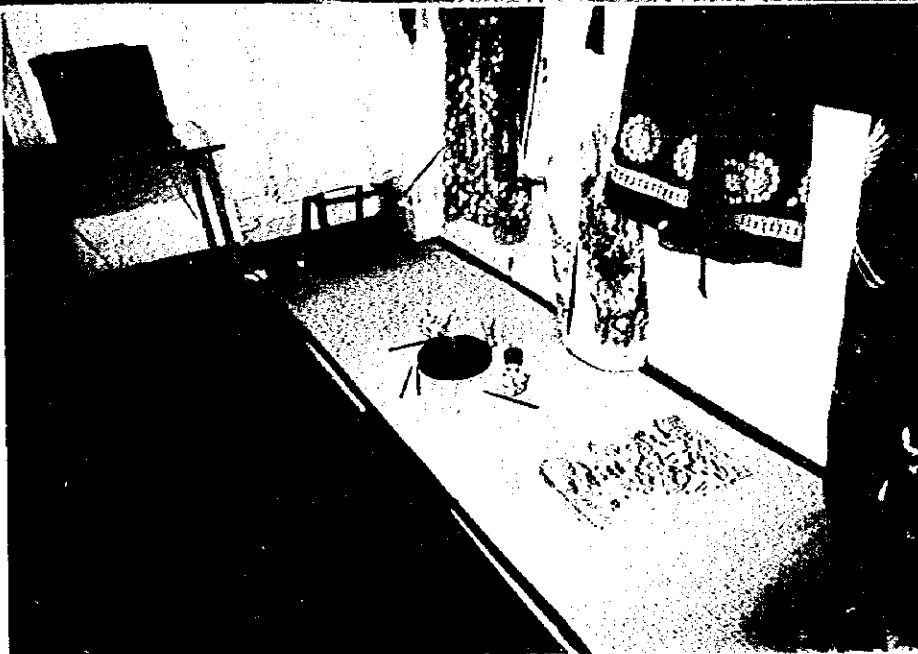




建設・運輸・建築大学



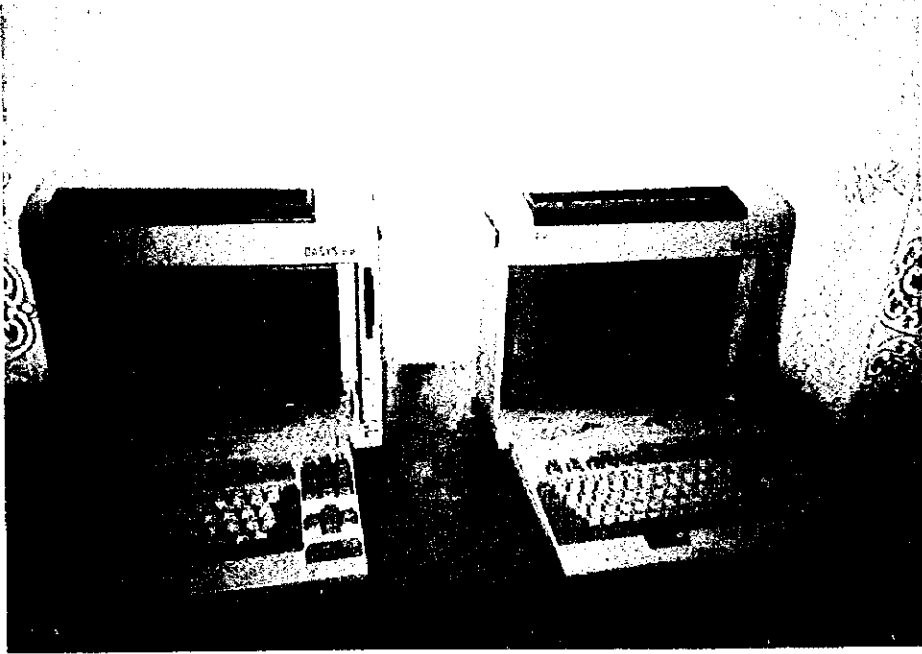
ビシュケク人文学大学



東洋言語文学科にある  
お茶のセット

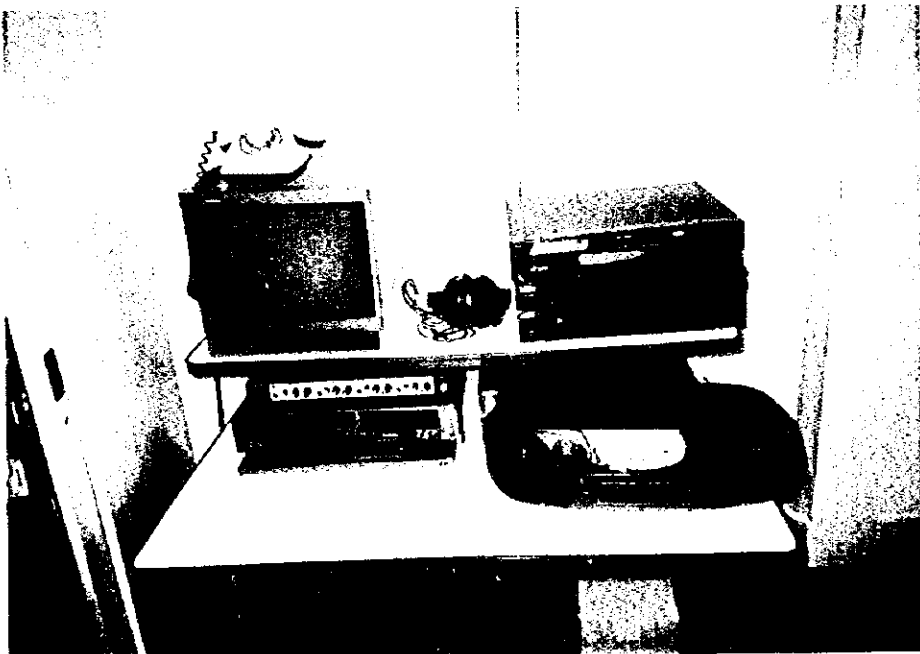




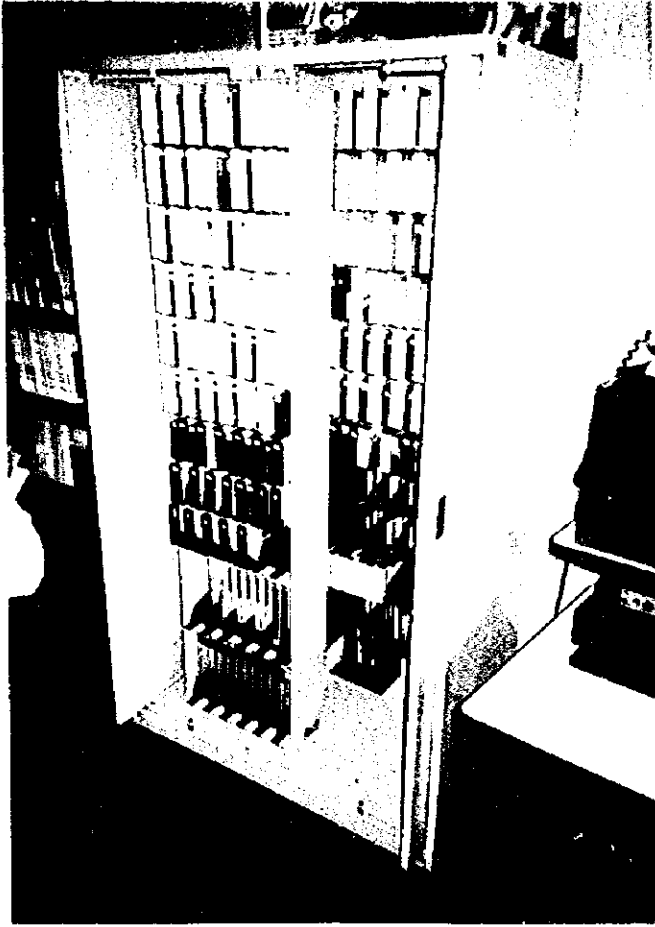


ビジュアル人文学大学

教材用機材







ビジュアル人文学大学

教材用ビデオ、図書







体育学院



運動場



合気道／道場



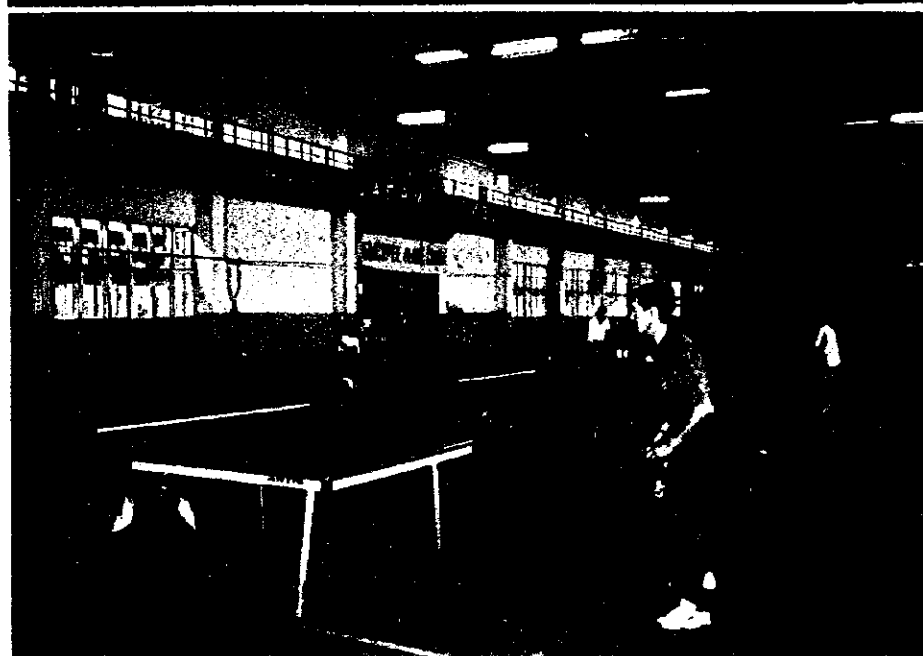


体育学院

バレーボールコート



筋力トレーニングジム



卓球練習風景







メリム慈善基金



子供達の作品



コンピュータ室



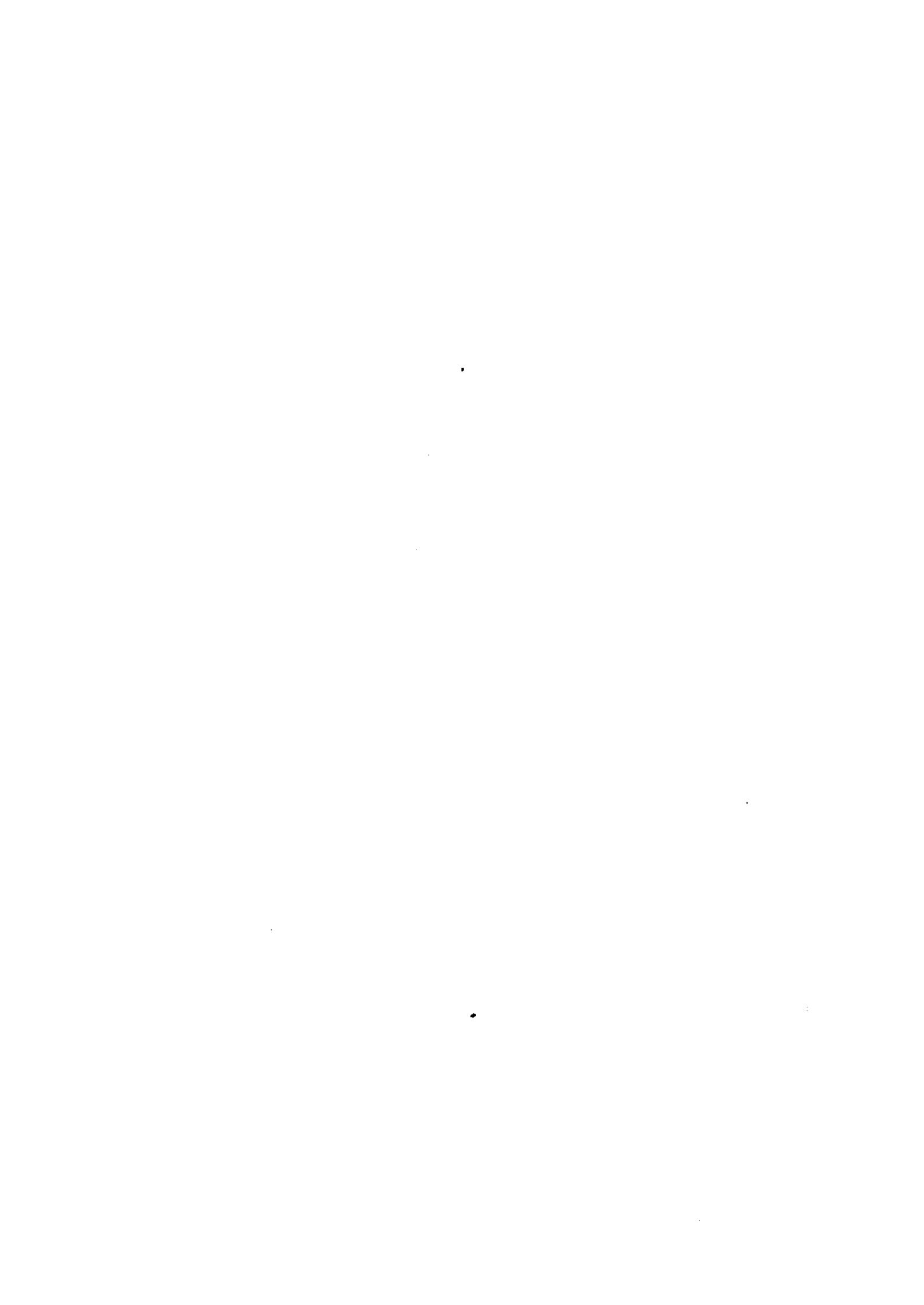


メリム慈善基金

生花教室



米国ピースコー事務所









JICA